

平成17年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
事業コード		事務事業名	入所者の生活、指導・介助事業	
根拠法令等	老人福祉法		A法令 B条例 C規則 Dその他 Eなし	

①総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉
------------------	------

②事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手段	生活の指導や介助事業を行なうことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる環境作りの提供をする。

③事業の概要

項目	平成16年度実績	平成17年度実績	平成18年度計画
延入所者数 <small>（毎月入所者×12月）</small>	420人 35人内訳（市内27人） （市外8人）	359人 30人内訳（市内21人） （市外9人）	480人 40人内訳（市内31人） （市外9人）

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	入所充足率	—
成果指標の説明	延入所者数/延定員（600人）	—

⑤事業の進捗状況（一般会計）（千円）

		平成16年度決算	平成17年度決算	平成18年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	80.0%
	実績	70.0%	59.8%	—
成果指標 ②	計画	—	—	—
	実績	—	—	—
事業費	事業費	6,087	4,333	8,521
	人件費	48,216	48,264	47,736
	（人数）	6.0	6.0	6.0
	合計	54,303	52,597	56,257
財源内訳	国	11,133	0	0
	県	479	479	479
	市債	0	0	0
	その他	7,893	1,852	2,597
	一般財源	34,798	50,266	53,181

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	定員50名の施設であるが、すでに築35年を経過している居室他の設備等の現状を考慮して予算措置は40人で要求している。当初定員より入所充足率は低下しているが、高齢化による認知症身体不自由者の増加で生活介助等日々の生活を快適に暮らせるよう工夫努力してきた。
経済効率性	2	2	国基準の措置費の範囲内で、入所者の生活に必要な費用を効率よく配分した。
事務効率性	2	2	職員は国の「職員配置基準」に基づいているが、入所者の高齢化・病弱化により、介助に多くの時間を要するようになった。
必要性	2	2	最近、入所理由の中に経済的困難な高齢者が非常に多くなってきている。国の基準に基づいて職員の配置運営すると、経費面で困難が生じているため、運営面での今後の検討が必要である。
小計	8 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	入所者の高齢化・病弱化により、手間がかかるようになっている。市民のボランティア・慰問者等の協力により、清掃・洗濯・繕い物奉仕で手助けを受けている。
合計	10 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	今後とも、入所者へのより充実した介助・生活指導に引き続き努力を重ねていきたい。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> ・17年度から指導員と寮母との意思の疎通を図る意味で、毎月1回指導員・寮母検討会を開き、入所者への処遇について改善に勤めてきた。 ・入所者による衣服の買い物に、従来1日で実施していたものを4日にかけて実施に変更したため、利用者の買物時間に余裕を取ったため利用者の満足できる買い物ができるようになった。 	

⑧今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> ・入所者が全体的に高齢化・病弱化しているが、生活・指導・介助を合理的に行ない、極力予算の範囲内で現行の人員で対処できるようにしていきたい。 ・弱者のためにバリアフリー化をすることにより、より一層快適な生活ができるよう整備をしたい。 ・高齢化によりベッドを必要とする利用者の要望に沿った対応を図っていきたい。

⑨平成19年度予算に反映する項目

--

⑩今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

[各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載]

平成17年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
事業コード		事務事業名	入所者の給食・栄養事業	
根拠法令等	老人福祉法		A法令	B条例 C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉

②事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	入所者に食事のサービスを提供する事によって、
想定する成果	入所者に喜ばれる食事の場を提供する。

③事業の概要

項 目	平成16年度実績	平成17年度実績	平成18年度計画
1日1人当たり平均単価	1,044円	989円	926円
国の示している生活費の1/2単価	932円	610円	841円
1日平均入所者数	34人	29人	40人

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	国が示している単価達成度	—
成果指標の説明	1日1人当たりの平均単価/国が示している単価×100	—

⑤事業の進捗状況（ 一般会計 ）（千円）

		平成16年度決算	平成17年度決算	平成18年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	110.0%
	実績	112.0%	162.0%	—
成果指標 ②	計画	—	—	—
	実績	—	—	—
事業費	事業費	27,608	24,871	28,349
	人件費	8,036	8,044	2,930
	(人数)	1.0	1.0	1.0
	合計	35,644	32,915	31,279
財源内訳	国	7,696	0	0
	県	331	331	331
	市債	0	0	0
	その他	5,456	10,538	14,778
	一般財源	22,161	22,046	16,170

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	日常生活の中で食事によせる関心が非常に高いため各自の健康保持、食欲増進と合せ、食べる事の楽しみを十分尊重し栄養バランスの取れた献立作り励んできた。
経済効率性	3	3	食材の選択、調理の具天、効率化により賄費の削減を図りつつ豊かな食生活づくりに励んだ。
事務効率性	2	2	自分で選ぶことのできる楽しみをつくるため複数献立と食事の選択性の取り組みを実施したところ自身の喫食量、献立を選ぶ事の楽しさ等が現れてきたと感じる又、献立名をあげたり食事に関するコミュニケーションが従来よりも増してきた事と実感している。
必要性	3	3	食べることは、利用者の大きな楽しみであり施設生活の大きな位置を占めている。老年期の栄養管理を踏まえつつ、食事サービスを通して利用者の生活を支えていくためにも必要である。
小計	10 / 12 満点中	10 / 12 満点中	
市民参加度	1	1	行事等実施する際に食事に関する生の声を聞いている。
合計	11 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	献立の内容も多様化を求められ、高齢による病弱化も増加中。通常の食事が不可能な治療食も必要となっているが、老年期の栄養管理又充実した老後の健康食生活のあり方を大きくとらえ、個々のコミュニケーションを大切にしてきた。又、行事により、食事形態の方法（バイキングセレクト）を検討し、よこばれる食事づくりに努めてきた。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> 給食関係納入業者に対して給食納入時に関する注意、各材料の新鮮度合等、衛生管理面等の啓蒙を続け衛生知識の把握を呼びかけている。 非常災害時発生に対する対処として、非常災害時の食事方法、非常食品の管理の見直しをしてきた。 食事提供する側において、種々の課題を給食委員会や職員のミーティングで検討し入所者に豊かで質の高い食事ができるよう食生活の改善に努力してきた。 16年度に給食納入材料検収場に納入材料専用の移動台を設置し、給食材料の衛生管理面を徹底してきた。又、調理室内の高温多湿対策を検討し、17年度に天井に換気扇を設置し環境整備を図った。 	

⑧今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> 調理室内の水道配管（天井設置）の清掃及び修理。

⑨平成19年度予算に反映する項目

--

⑩今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

[各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載]

平成17年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム	内線等	8004
事業コード		事務事業名	施設の管理・事務事業	
根拠法令等	老人福祉法		A法令	B条例 C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢者福祉

②事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	施設の管理や事務事業を行うことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる場の提供をする。

③事業の概要

項 目	平成16年度実績	平成17年度実績	平成18年度計画
延入所者数 (入退所人員)	420人 (入所2人・退所8人)	359人 (入所2人・退所6人)	480人 (入所 人・退所 人)

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	入所充足率	—
成果指標の説明	延入所者数/延定員（600人）	—

⑤事業の進捗状況

（ 一般 会計 ）

（千円）

		平成16年度決算	平成17年度決算	平成18年度予算
成果指標 ①	計画	-	-	80.0%
	実績	70.0%	59.0%	-
成果指標 ②	計画	-	-	-
	実績	-	-	-
事業費	事業費	6,260	10,889	12,389
	人件費	4,018	12,066	11,934
	(人数)	0.5	1.5	1.5
	合計	10,278	22,955	24,323
財源内訳	国	3,001	0	0
	県	129	129	129
	市債	0	0	0
	その他	2,127	4,611	6,467
	一般財源	5,021	18,215	17,727

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	施設の老朽化が目立ってきている。快適な日常生活が続けられるよう改善・修繕を継続して行っている。
経済効率性	2	2	国基準の措置費の範囲内で効率よく予算配分し、快適な日常生活が過ごせるよう努力してきた。
事務効率性	2	2	職員は国の「職員配置基準」に基づき配置しているが、事務は複雑化している。
必要性	1	2	高齢者福祉における社会的援助が必要な人への位置づけをしている。養護老人ホームとしてこれからの役割、機能的な運営を検討していくために必要性がある。
小計	7 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	1	1	慰問・ボランティア・奉仕に来てくれる人から、生の声を聞いたり近隣施設の行事に進んで参加し各情報収集に努めている。
合計	8 / 15 満点中	9 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	養護老人ホームは昭和46年開所（35年経過）し、老朽化が進み建替の時期をむかえている。入所者が生きがいを持ちプライバシーの保護をしていくためにも、蒲郡市総合計画の施策を進めつつゆったりとくつろげる施設づくりを視野に加え検討整備していきたいと考える。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> 入所者の快適な生活がおくれるよう、17年度に風呂脱衣室のエアコンの設置及び風呂浴室内の手摺の追加設置をした。 17年度に火災報知設備の一部感知器を新規格の性能機種に取り替え防火機能の充実を図った。 	

⑧今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が目立っている中、措置費の範囲内で劣弱化した施設の回復の修繕、入所者の高齢化対応の施設への改善を図っていきたい。 廊下の老朽化による回復修繕、高齢化による対応策として、部屋の冷暖房、便所の洋便化等の改善
--

⑨平成19年度予算に反映する項目

--

⑩今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

[各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載]

平成17年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
事業コード		事務事業名	入所者の看護・保健衛生事業	
根拠法令等	老人福祉法		A法令	B条例 C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉

②事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	入所者一人ひとりの健康を損なわないよう、過ごしやすい生活環境を整えていくことにより
想定する成果	一人ひとりの体力を把握し、個人にあった健康づくり、衛生管理面を習得させる。

③事業の概要

項 目	平成16年度実績	平成17年度実績	平成18年度計画
通院者数	1,092人	1,199人	1,160人
延入所者数	420人	359人	480人

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	入所者受診率	—
成果指標の説明	延通院者数／延入所者数	—

⑤事業の進捗状況（ 一般会計 ）（千円）

		平成16年度決算	平成17年度決算	平成18年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	—
	実績	2.6	2.2	—
成果指標 ②	計画	—	—	—
	実績	—	—	—
事業費	事業費	6,962	3,557	1,021
	人件費	4,018	6,350	6,368
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	10,980	9,907	7,389
財源内訳	国	2,159	2,159	0
	県	92	92	92
	市債	0	0	0
	その他	1,530	1,518	2,129
	一般財源	7,199	6,138	5,168

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	入所者の健康状態を把握し、病弱者の早期発見に努め病弱者の介助・看護に努めた。
経済効率性	2	2	保健衛生面による施設内の環境作り、各管理棟の清掃等入所者が参加し保健予防及びそれらに係る経費の有効支出に努めた。
事務効率性	2	2	看護師と寮母との業務調整を図ることにより、介助・通院者の付添い手助け等スムーズに運ぶことができた。
必要性	2	2	高齢・病弱化しているため看護・介助する手間が増加してきている。個々の健康状態を把握し早期発見に努めることが必要である。
小計	8 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	1	1	奉仕による眼科・歯科検診、身体が健全に生活できるよう、ボランティアの慰問協力を得ている。又、嘱託医を民間医師に委託しているため、医師所属の病院との親交・交流が深まっている。
合計	9 / 15 満点中	9 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	要介護者・有病者の増加に伴い、看護師の指示により、特に病気については適切な予防や対策に、一層の注意をもって対応するように努めた。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
段差のない居室等出入り口、便器の和式から洋式への切替えの洋便座の設置、入所者の疾病の早期発見のため健康診断の充実、保健衛生に係る備品の充実に努めてきた。	

⑧今後改善すべき点

高齢に伴う認知症、身体的不自由者の身体機能低下、病弱化が顕著になっている。このため身体的に安静できる環境整備を検討工夫していきたい。
--

⑨平成19年度予算に反映する項目

<p>入所者が安心して生活ができる環境の整備、感染管理及びリスク面から次の点を考えていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 出来るだけ段差の解消（トイレ・風呂・居室など） 清掃しやすい環境づくり（居室） ベッドの導入（高齢者には布団の上げ下ろしは困難及び介助者には介助しやすい利点あり） 風呂場の改善（混合栓）・シャワートイレの増設 食堂に吸引器の設置 <p>カルテファイルA 4版を希望</p>
--

⑩今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

[各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載]